

不適切記事 雑誌など翻訳

「WaiWai」は、雑誌名を明示し、表紙の写真を付した上で、導入部で記事全体を要約し、第2段階以降は元の記事を紹介するとして毎日、計56回掲載された。毎週金曜日に掲載された関連コラム「The Face」346本と合わせると、計2907本になる。

元の記事は月刊誌「料理」で、悪徳と愛の愛者というタイトルで男性向け週刊誌「男性向け週刊誌」の話を取り上げたもの(07年9月)や、「古くから伝わる米の祭り」

外国人記者任せ

チェックなく素通り

「WaiWai」は、毎日新聞が発行していた英字紙「毎日デイルイニクス」の執筆に加わった。1989年10月に連載をスタートした。硬いニュースだけでなく、「軟らかい読み物」も扱おうと、国内の週刊誌や月刊誌の記事を引用しながら、日本の社会や風俗の一端を面白く紹介する狙いだった。

英字紙の時代は、毎週日曜日に1ページを使って記事6本と雑誌の見出しだけを紹介するスタイルが定着した。英字紙毎日編集部の外国人記者や社外の外国人ライター35人が執筆。取り上げる雑誌も外国人が中心となっていた。執筆者は外国人ライター1人、日本人ライター1人、現在の日本文学は2人になった。「WaiWai」の執筆は、外国人ライター1人、現在の日本文学は2人になった。「WaiWai」の執筆は、外国人ライター1人、現在の日本文学は2人になった。

英文サイト問題検証

毎日新聞社は、英文サイト「毎日デイルイニクス」(MDN)上のコラム「WaiWai」に不適切な記事が掲載された問題で、社内調査を続けてきた。関係者の事情聴取などで判明した検証結果と、調査をした特別チームの原因分析を報告するとともに、有識者による「開かれた新聞」委員会の委員の見解を掲載します。

◆WaiWai問題の経緯◆

89年10月	毎日デイルイニクス(MDN)で、「WaiWai」の連載開始
96年10月	担当記者の試用期間開始(97年10月から特別嘱託記者)
01年3月	MDNが休刊
4月	MDNがウェブサイト上で再スタート、WaiWaiも再開
05年4月	担当記者がMDN編集長に
07年10月	米国在住の読者からWaiWaiを批判するメール(英語)
08年3月	国内の読者からWaiWaiを批判するメール(日本語)
5月30日	月刊誌から記事の使用について抗議
同31日	WaiWaiの一部記事を削除
6月20日	ニュースサイトがWaiWaiの問題を取り上げる
同21日	WaiWaiを閉鎖
同23日	サイト上に経過説明とお詫びを掲載
同25日	本紙に経過説明とお詫びを掲載
同27日	担当記者を休職3カ月の懲戒処分。上司ら関係者も処分
同28日	本紙に問題の経緯を掲載

遅れた削除、閉鎖

今年5月下旬、ネット上の掲示板に、「WaiWai」に関するスレッド(特定の話題に関する投稿集)が立ち、内容が低俗。日本人が海外で誤解され、といった批判が寄せられた。同30日には、「WaiWai」に取

少女キャラクターが登場する漫画で紹介しているという月刊誌記事を07年7月に取り上げた際、導入部の防衛省の説明に「真珠湾攻撃の」という表現が、現在、発行元の出版社と対応を協議している。

読者受けを意識過激に

「WaiWai」の執筆に加わった当初、ベトナムの外国人ライターから「我が国や日本を盛り込む個人的不当な記事は許さず」という苦情が来ていることを知った。WaiWaiのネット上のニュースサ

「WaiWai」の執筆に加わった当初、ベトナムの外国人ライターから「我が国や日本を盛り込む個人的不当な記事は許さず」という苦情が来ていることを知った。WaiWaiのネット上のニュースサ

外部の指摘生かせず

「WaiWai」に不適切な記事が掲載されたのは、▽原稿が妥当かどうかをメディア倫理に照らして精査するデスク機能がなかった▽執筆陣が男性に偏っていたため女性の視点が多かった▽スタッフは外国人のみで日本人の視点が欠けていた。三つの編集上のチェックの不在が直接の原因と言え。

女性の視点欠如

女性記者は「取材先の米国人から『こんなひどい記事が掲載されたら、毎日新聞と関係があるのか』と聞かれたことがある。毎日新聞の信頼性という点から非常に深刻に受け取っていたと明かす。高橋は就任後に「WaiWai」を見て低俗だな、セックス記事が多いなという印象を持ったという。間もなく、担当記者が過激な内容の雑誌名を挙げ、「わいせつな記事

品質管理体制の不在

毎日新聞本紙の場合、紙面審査委員会や「開かれた新聞」委員会を通じて、記事内容は常にチェックされるが、MDNにはそのようなシステムはない。担当記者が書いた原稿がそのまま掲載され、不適切な記事が見逃され続けた原因は体制上の欠陥にもある。

記者倫理の欠如

担当記者は「毎日新聞の信用を傷つけてしまいかも」との認識を持ちながら、不適切な記事を頻りに翻訳し、「元のこ

批判への対応鈍く

ウェブ版がスタートした01年4月から08年3月までに寄せられた苦情は確認できただけで15件あった。しかし、注目されるコーナーだったためもあり、外部の声に真摯に耳を傾ける姿勢が担当記者にも幹部にも欠けていた。

検証チームの分析

検証チームは、東京本社編集局社会部、「開かれた新聞」委員会事務局、内部監査室で構成し、公正を期すため、デジタルメディア局は外しました。